

胆道狭窄における陰圧を併用した生検の がん検出率に対する有用性についての研究

大阪府済生会中津病院検査技術部では、現在、2013年1月から2024年3月の期間中に当院で胆道狭窄に対し、病理検体採取を行った患者さんを対象に研究を実施しております。内容については下記のとおりとなっております。

尚、この研究についてご質問等ございましたら、最後に記載しております[問い合わせ窓口]までご連絡ください。

[研究概要および利用目的]

胆管がんは、国内のがん死亡の原因として5年生存率が低いがんです。現在、腹部超音波検査やダイナミックCT また MDCT の画像診断により早期発見や進展度診断が可能となりましたが、外科手術や化学療法を含む一次治療を行うためには、病理学的な診断が必要です。

しかしながら、ブラシを用いた擦過や把持型生検鉗子で採取した病理検体のがん検出率は十分とは考えられていません。そのため近年、新たな搔把型生検鉗子が開発されました。搔把型生検鉗子は、がん検出率が上昇すると報告されています。そこで当院においても、がん検出率が改善されているか調査を行っています。

本研究を行うことで、より正確にがんの診断が可能になり、今後胆管がんが疑われる患者さんの利益につながると考えます。

【研究期間】

大阪府済生会中津病院長承認年月日から2028年3月31日まで行う予定です。

[取り扱うデータ]

- ・年齢
- ・性別
- ・既往歴
- ・内服歴
- ・生化学検査
- ・病理検査
- ・内視鏡検査

[個人情報保護の方法]

個人情報、検査結果などの記録、保管は第三者が直接患者さんを識別できないよう登録時に定めた登録番号を用いて行います。また得られた記録は、研究情報を取り扱うコンピューターおよび移動媒体はパスワード管理するなどにより、情報の紛失・漏洩等に十分配慮した取り扱いの上で保管を行います。

[研究へのデータ提供による利益・不利益]

利益・・・より正確にがんの診断が可能になり、今後胆管がんが疑われる患者さんの利益につながると考えます。

不利益・・・電子カルテからのデータ収集のみであるため、特にありません。

[研究成果の公表について]

研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合も、患者さんの個人情報の秘密は厳重に守られますので、第三者に患者さんの個人情報が明らかになることはありません。

[研究へのデータ使用の取り止めについて]

いつでも可能です。データを本研究に用いたくない場合には、下記[問い合わせ窓口]までご連絡ください。取り止めの希望を受けた場合、それ以降、患者さんのデータを本研究に用いることはありません。しかしながら、同意を取り消した時、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合のように、結果を廃棄できない場合もあります。

[問い合わせ窓口]

この研究についてのご質問だけでなく、ご自身のデータが本研究に用いられているかどうかをお知りになりたい場合や、あるいはご自身のデータの使用を望まれない場合など、この研究に関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせ下さい。

連絡先・相談窓口：

住所： 大阪市北区芝田 2-10-39

大阪府済生会中津病院 検査技術部 池田卓也

電話： 06-6372-0333(代表)

